科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ （フィジカルアセスメント）
講師名		実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次　第 1 学期
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		

目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得する。

目標：1. 主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出すことができる。

2. 看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得できる。

回	授　業　内　容	授業方法
1	1．フィジカルアセスメントの意義 1）ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2）健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義
2	2．フィジカルアセスメントに必要な技術 1）視診　2）触診　3）打診　4）聴診　5）全体の概観	講義
3	3．バイタルサインの観察とアセスメント 1）体温　2）脈拍　3）呼吸　4）血圧　5）意識 6）計測の技術　7）生理的変動因子	講義
4・5	4. 血圧測定 1）測定する環境と体位　2）マンシェットの巻き方・聴診器のあて方 3）加圧と減圧・目盛の見方	講義・演習
6 (45 分)	5．臥床患者のバイタルサイン測定 1）測定前・中・後環境の調整 2）測定方法 （1）体温 （2）脈拍 （3）呼吸 （4）血圧	演習
7	6．呼吸器系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状と他覚症状・徴候 （2）胸郭の動き （3）呼吸音の聴取 （4）胸部の打診	講義
8	7．循環器系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状　（2）他覚症状の視診　（3）頸静脈の視診と頸静脈圧の測定（4）胸部の打診　（5）触診　（6）心音の聴診	講義
9	8．腹部のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状　（2）他覚症状の視診 （3）腸蠕動音、血管雑音の聴診（4）打診　（5）触診	講義

10	９．胸部（呼吸器系・循環器系）・腹部のフィジカルアセスメント １）胸部の視診・触診　　２）呼吸音聴取　　３）心音聴取 ４）腸蠕動音の聴取	演習
11 （45 分）	10. 臥床患者のバイタルサイン測定	技術習得度確認
12	11. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント １）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 ２）フィジカルアセスメントの実際 （１）自覚症状　（２）関節可動域の観察　（３）徒手筋力テスト（MMT）	講義
13	12. 脳・神経系のフィジカルアセスメント １）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 ２）フィジカルアセスメントの実際 （１）自覚症状　（２）運動機能の評価　（３）感覚機能の評価	講義
14	13. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） １）発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
15	14. 看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） １）発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント	グループワーク
16 （45 分）	看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感）を訴える患者のフィジカルアセスメント ・問診 ・バイタルサイン測定（体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定）、SpO 測定 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント（呼吸音聴取） ・得た情報の統合、報告	技術試験
17 （45 分）	終了試験	
評価方法	技術試験（50%）筆記試験（50%）　　評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ ＜参考図書＞ 医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント メディックメディア：看護が見える　フィジカルアセスメント	
備考	既習関連科目：人体形態機能学　生活援助技術Ⅰ	